

## 継続は力なり！前進あるのみ

徳島県 JA東とくしま女性部フレッシュミズ部会

杉本 かおり

生まれも育ちも福岡県北九州市の私は、会社員の父、公務員の母、幼稚園教諭の姉の4人家族でした。小倉駅前ビルでOLをしていた私は、田畑を見たことが無いに等しく米や野菜がどのようにして作られるのか全く興味もなくそれどころか、疑問にすら思ったことはありませんでした。そんな私が徳島県人になったのは、17年前当時夫が、北九州の大学2年生、私が高校3年生の時に出会ったのがきっかけでした。夫が大学卒業後地元の徳島県で会社員になり遠距離を続け2年が経った頃、「結婚して下さい。」の一言ですべてが一変しました。夫はトマトと胡瓜のハウス50a、田んぼ90a、畑40aの専業農家の長男です。予想通り私の両親、姉そして友人までもが猛反対でした。皆口を揃えて「何でそんな遠くに行くの？」「農業はあなたには絶対無理」でした。農業の大変さ等を考えたこともなく、夫の「俺も会社員やし、農業はせんでえ～よ」の言葉を信じ徳島に嫁いできました。

夫の実家は祖母、義父、義母、2人の義妹の3世帯が暮らす家ということもあり、義父母が「外に出て暮らしてもいいよ」と気を使ってくれ、2人だけの自由気ままな生活を送っていましたが、その間に夫の会社が倒産し農協に転職しました。結婚して6年目に長男を出産し、翌年には次男も産まれた頃、すでに祖母は他界し、義妹2人は結婚してそれぞれの生活をしていました。

ついにきました！「そろそろ帰っておいで。敷地内に家を建てて住みよ」の言葉でした。家の前には大きなハウス。周りは田んぼ。虫や蛙の嫌いな私には最悪の環境でしたが、子ども達にとっては、自然の遊びがたくさんできる最高の環境です。

義父母が朝早くから夜遅くまで仕事をしているのに、家でゴロゴロできるはずもなく少しずつ農業を手伝うようになりました。はじめの頃、パート感覚で胡瓜の箱詰めや、トマトの袋詰め等を義父母に言われるがままにしていました。そのうちに、トマトと胡瓜の選別をするようになり、ハウスの手入れや収穫をし、ついには市場にトラックに乗って出荷するようになりました。

今から4年前、『JAみはらしの丘あいさい広場』という産直が立ち上がることになり、「かおりが責任をもって出荷するのなら出してみるか？」との義父からの話に、おもしろそうだなと思い、何度も立ち上げの会に参加しました。いざオープンしてみると、杉本の桃太郎トマトは飛ぶように売れ、追加しても追加しても完売し、土、日曜日には1tトラックで義父と2人がかりで出荷する程でした。それもそのはず、私達は休むことなく、手間を惜しまず大事に大事

に育て赤く実り、甘熟になってからしか収穫をしないというこだわりを持ってましたから。消費者からの「本当においしい」「あいさい広場が出来てからトマトを食べる日が増えたよ」の声を励みに一日も休まず朝一番に出荷をしてきました。

一年目には、あいさい広場の運営委員になり益々私のやる気に火がつけました。現在、運営委員 24 名のうち女性は 10 名で、私は最年少の運営委員です。運営委員長も女性がつとめています。今ではあいさい広場も年間 10 億円を超える産直へと成長しました。私はあいさい広場へ出荷するうちに、フレッシュミズへの加入を誘われました。

フレッシュミズの活動にはじめて参加したのは総会でした。一年間の活動報告等を聞き“おもしろそう”と思ったのが第一印象でした。それから活動全てに参加させて頂いて、何となくフレッシュミズの意味がわかってきたように思えた二年目、JA 東とくしま女性部フレッシュミズ部会の会長となりました。私には荷が重い気がしていましたが、フレッシュミズの先輩方から「大丈夫！私達も応援するし、できる限り力になるから」との心強い言葉を頂きました。友人をフレッシュミズに誘い 4 人の部員を増やし、一年間の活動計画を練っていると、事務局より「子ども達といっしょに食農を体験するスクールをしてみない？」との話に「い～ね～」の一言で、どんどん話が進み、県が推進している『なっ！とくしま』というネーミングの使用許可をとり、『なっ！とくしまスクール』と名付け、年 4 回のスクールを開校することになり、口伝えや募集紙を見て 50 名の子ども達が入校してくれました。

フレッシュミズの部員と事務局と何度もうち合わせ会議を重ねて案を練りあげました。たまに楽しい話で脱線しながら和気あいあいと話し合いは進みました。

「かおり達フレッシュミズが立ち上げるのだから力になるよ。トマトや胡瓜のもぎ取り体験もいいし、畑を全部使ってもいいよ」私達は義父のその言葉に甘え、畑でのさつま芋の苗植えや看板作り、ハウスでのトマト、胡瓜のもぎ取り体験、さつま芋の収穫と、義父母の全面協力を得て、子ども達に食べ物の大事さ、作る大変さを感じてもらえる事ができました。夏休み期間中には私をフレッシュミズに誘ってくださった、あいさい広場で米粉パンを販売して、売り上げが好調であるフレッシュミズの先輩に、講師として米粉パン作りを教えて頂きました。修了式には毎回子ども達と一緒に活動して下さった組合長と女性部の部長より一人ずつ修了証を手渡して頂き、本当に嬉しそうに受けとっている子ども達の笑顔が今でも忘れられません。『なっ！とくしまスクール』を通じ地域の方々との交流もでき、食の大切さを親子で感じて頂けたこと。そして何より JA 職員とフレッシュミズ部員が一丸となり、部員同士が凄く仲良くなれ、さらに部員が 3 人増えた事の嬉しさで大変だった準備も「楽しかったね。」の言葉で終了することができました。

次年度の活動を始動しなくてはならないのに、一大イベントが終わったことで、活動を考えきれない私に義父は「部員の仲間やJA、地域の方達が協力してくれことに感謝しながら、2年目を開校せよ。2年目が、一番大変であり大事なんぞ！」と喝を入れてくれ、すぐに次の取り組みとして『なっ！とくしまスクール』で収穫したさつま芋を、農協祭で子ども達と販売して得たお金で、寄せ植えを作り、それを持って各支所に次年度の『なっ！とくしまスクール』募集とフレッシュミズ部員加入のお願いに伺いました。

私がこれほどまでに部員の増加を切望するのは、20年度第12回JA女性組織フレッシュミズ全国集會に実行委員として参加、参画させて頂き、全国の仲間のお話を聞き、悩みや解決方法等を話していくうちに、“フレッシュミズ3ヵ年計画の最終年にふさわしい活動をしよう”と思ったからです。私のことをいつも気にかけてくれ、全国集會に送り出してくださったJA徳島女性協フレッシュミズ部会長の「フレッシュミズの仲間のなかからたくさんの方がリーダーとなって、全国に行ってもらいたい」との言葉をやっと理解することができました。

全国集會に出席するには、仕事や家の事をおいていけないと不安と家族に申し訳ないなあの気持ちがありました。その気持ちを義父は悟ったのか「ワシが出荷しに行くし、後のことは、ばあも憲もおるけん、まかせとけ！」と忙しい最中笑顔で送り出してくれた私の一番の理解者である義父が、62歳という若さで、今年4月に他界してしまいました。病に倒れ一ヵ月後の出来事でした。入院している間、夫に農協を休んでもらい、義母と夫と私は、義父の側にずっといたい気持ちと不安で涙を拭いながら日中はハウスの作物の手入れをし、夜には病院にかけつける日々でした。どうして義父が？

大きな大きな大黒柱を無くした家族は悲しみと不安の中で生活していますが、夫も跡を継ぐ決心をし、妹達も手伝ってくれ、義父の宝物のトマトと胡瓜を大切に育て収穫しています。

私がトマトと胡瓜を出荷しているみはらしの丘あいさい広場は産直の機能強化をはかるために周辺を開発中です。フレッシュミズ活動が活発になるために活用できるようにJAの役員の方々にお願いしていますが、今年、女性の理事枠が2名総会で承認され、来年度から女性の理事が新たに2名誕生します。いつか私も女性理事となり、JA運営に参画するという大きな夢を抱いています。

まだまだピカピカの農業一年生の夫と、心強いベテランの義母と、目の前の仕事をこなしていくのが精一杯の私ですが、義父が生前毎朝言っていた「継続は力なり！前進あるのみ」のことばを胸に引き継ぎ、トマト好きの息子達に「おいしい」と言ってもらえるように、前進していきます。一人では何もできない私に力をくれた皆に感謝し、今年度も大きな力を借り、元気いっぱい、笑顔いっぱいのフレッシュミズ活動を皆で始動します。